

令和7年度 学校評価報告書（目標設定）

| 視点 | 4年間の目標 (令和6年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | |
|----|---------------------|---|--|---|---|
| | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | |
| 1 | 教育課程 学習指導 | <p>①共生社会の実現にむけて、授業改善を中心とした教育活動を推進して課題解決力を育むとともに、個に応じた学習機会の拡大を促す。</p> <p>②部活動、生徒会活動を活性化させ、生徒の自主性、主体性を育む。</p> | <p>①確かな学力のさらなる定着と向上のため、個に応じた指導に加え、応用力・表現力を育てる授業づくりを進める。学び直しの成果を生かしながら、生徒が「わかる」「できる」を実感し、自ら学ぶ意欲につなげる授業を展開する。インクルーシブ教育の理念のもと、多様な学びのスタイルに対応した柔軟な学習支援を拡充する。</p> <p>②生徒会行事では、生徒自身が中心となって企画・運営・振り返りを行うプロセスを確立し、自治的な力を高める。部活動では、生徒の目標設定や活動の振り返りを重視し、主体性をさらに伸ばすとともに、学校内外に積極的に活動成果を発信し、地域とのつながりを意識した活性化を図る。</p> | <p>①習熟度別授業や補習により、個に応じた指導を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板などのICTを効果的に活用して「分かる喜び、できる喜び」を味わうことができるような授業の実践、また、生徒がICTを利活用して自主的に学習する環境を整える。 ・ICTの利活用やTTによる授業実践に関する校内研修を通して、実践力を身に付ける。 ・インクルーシブ教育の理念のもと、誰一人取り残されない学びの保障に取り組む。 <p>②生徒会本部役員の会議等を活用して生徒自身が行事を運営している実感を得られるよう促す。部活動に関する情報を積極的に発信できる方法を工夫し、部活動の励みになるように努める。</p> | <p>①「生徒による授業評価」の結果により、個に応じた指導ができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業が増加したか。 ・インクルーシブ教育を実践し、TTによるわかりやすい授業や個別のニーズに配慮した学習指導を実践したか。 ・電子黒板などのICTを活用することができたか。 ・外部機関の講師を招聘し、教員の授業力向上に役立てられたか。 <p>②生徒たちが主体的に行事にかかわることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動に関する情報発信が活発化したか。 |
| 2 | 生徒指導 ・支援 | <p>①基本的な生活習慣を確立し、ルールやマナーを自発的に守る生徒の育成を図る。</p> <p>②多様な生徒に対してそれぞれの課題に応じた支援体制を構築する。</p> | <p>①規律意識の定着を図るとともに、生徒自身が集団の中での自分の役割や行動を自覚し、周囲と良好な関係を築けるよう、自律的な行動力の育成をめざす。予防的な指導に加え、生徒の内面に寄り添った対話的な関わりを通じて、問題行動の根本的な未然防止に取り組む。</p> <p>②生徒一人ひとりの変化を見逃さず、日常的な関わりを通して信頼関係を深めることで、より早期の課題発見と対応を可能にする。全職員が共通理解を持ち、チームとして機能する体制を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な背景や課題のある生徒への支援をさらに充実させるため、SC・SSW・SMなど専門機関との連携を深め、組織的・継続的な教育相談体制を構築する。 | <p>①教職員間で生徒の情報共有を密に行い、生徒への積極的な働きかけにより、規律意識を高め、生徒の自律を促す。</p> <p>②生徒へのこまめな声かけや面談を通して心身の変化に気づき、困り感を聞き取る等、速やかな課題解決を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任、学年、SC、SSW、SM、相談コーディネーターとともに外部機関との連携を深め、生徒一人ひとりの課題に対応し、ケース会議を開く等、組織的な支援を行う。 | <p>①特別指導等の指導件数が減少したか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や社会のルールを守って、モラルやマナーの向上が見られたか。 <p>②SC、SSW、SMと生徒、保護者との面談回数は増加したか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部の相談機関等と連携し、効果的な生徒支援ができたか。 ・ケース会議を開催し迅速に対応できたか。 |
| 3 | 進路指導 ・支援 | <p>①一人ひとりのキャリア発達のために、社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を育てる。</p> <p>②自己理解の深化と自己受容や勤労感、職業</p> | <p>①生徒一人ひとりが自身の強みや可能性をより深く理解し、将来の目標に向けて主体的に取り組めるよう多面的な支援を行う。進路希望の実現に向けて、個々の適性や興味に応じた体験的学习や多様な選択肢の提示を通して、より実践的かつ汎用性のある進路支援を行う。</p> <p>②インクルーシブ教育実践推進校として、多様な生徒のニーズに対応した進路支援体制をさらに強化し、継続的かつ段階的な情報提供と個別支援を計画的に実施する。外部機関や地域との</p> | <p>①各学年の進路ガイダンスや探究学習等において体験的活動を取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業や上級学校等において必要となる知識・技能等を知る機会を設定し、具体的に将来の自分をイメージできる活動を展開する。 ・「朝読書」及び「新聞を読む」等をとおして読解力の養成に努めるとともに、社会の急激な変化を理解し、汎用性の高い力の育成に努める。 ②「職業と生活Ⅰ、Ⅱ」をとおして、将来に向けたキャリ | <p>①各学年において進路体験的学習を取り入れたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業等を活用してインターンシップを実施し、フィードバックを行ったか。 ・「朝読書・新聞を読む」の活動をとおして、生徒の視野が広がり、多面的な見方・考え方ができるようになったか。 <p>②「職業と生活Ⅰ、Ⅱ」をとおして社会的・職業的自立について意識や行</p> |

| 視点 | 4年間の目標 (令和6年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | |
|----|----------------------|--|---|--|
| | | | 具体的な方策 | 評価の観点 |
| | 観の確立を目指し、進路指導の充実を図る。 | 連携を深め、社会的・職業的自立を見据えたキャリア形成を支援する。 | ア形成を支援し、主体性のある行動変容を促す。 | 動の変容が認められたか。 |
| 4 | 地域等との協働 | <p>①地域・保護者等との連携・協働を推進し、信頼される学校づくりに取り組む。</p> <p>②インクルーシブ教育実践推進校としての取り組みを、説明会や見学会、情報発信を通して継続的かつ具体的に伝えることで、学校の特色や教育理念を広く共有し、地域や関係機関との連携基盤をより強固なものとする。</p> <p>③PTA活動や地域ボランティアとの協働の機会をさらに広げ、生徒が地域社会の一員として関わる実体験を重ねる中で、社会性や責任感、共に生きる力を育む。地域とのつながりを生かした教育活動を推進し、共生社会の形成に寄与する。</p> | <p>①ホームページの充実を図り、夏の学校見学会と10月、11月の学校説明会で本校の魅力や特色を積極的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで行事などの記事を載せ、生徒がどのような学校生活を送っているのかを感じられるように充実を図る。また、学校説明会等で、本校の魅力や特色を発信する。 <p>②連携生等の進路実現に向けた支援の1つとして職場体験（インターシップ）を設定し、自立と自律の醸成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業や外部の教育機関との連携により実践的かつ今日的な情報を収集し、生徒の進路支援に生かす。 <p>③清掃活動や体育祭、文化祭などをとおして、地域、生徒、保護者が一緒に活動する機会を設ける。また、地域の企業や団体と協力して、環境保護や地域振興に関するプロジェクトを行う。</p> | <p>①本校の魅力や特色を適切に、定期的に発信することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生や大学・専門学校・職業人を招聘し、必要となる情報や知識を提供したか。 <p>②個別指導計画に基づいた支援について内容を精選し職業等の支援につなげたか。</p> <p>③生徒が活動後に報告書を作成し、学んだことや感じたことを共有することで、共に生きる力の育成を確認する。</p> |
| 5 | 学校管理 学校運営 | <p>①学校運営に関して保護者や地域住民等の意向を反映して協力を得るとともに、学校安全管理を組織的に推進する。</p> <p>②事故・不祥事防止対策を徹底する。</p> <p>③働き方改革、ICT利活用等により教育環境の整備を進め、円滑な学校運営を実施する。</p> | <p>①地域と連携した防災訓練の質を高めるとともに、生徒・職員それぞれが自ら考え行動できる「実効性のある防災教育」を開催する。防災研修やシミュレーションを通じて、災害時における役割意識と対応力を一層強化し、地域防災の中核を担う体制を築く。</p> <p>②成績処理、個人情報の取り扱い、体罰・事故等の未然防止について、教職員一人ひとりが規範意識と責任感を持って行動する体制を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私費会計処理は、業務の分担や手順の明確化を図り、効率的かつ透明性の高い運用を実現する。 <p>③教育活動全体におけるICTの活用を教職員各自が「自分ごと」として捉え、日常業務の効率化・省力化に取り組むことで、継続的な働き方改革を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が自ら業務の見直しに主体的に取り組み、「やめるべきこと」「簡略化できること」を明確にしてスクラップ＆ビルトを実行に移す体制を確立する。 | <p>①参加者からのフィードバックを収集して訓練の質を評価する。また、訓練後に生徒や職員に対してアンケートを実施し、理解度や自信の向上を評価する。</p> <p>②外部監査を依頼し、第三者の視点から透明性と効率性を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員一人ひとりが当事者意識を持ち不祥事防止に取組み、生徒・保護者・県民からの信頼を得られる学校づくりを推進できたか。 <p>③会議の減少や効率を図ることで、業務改善を行ことができたか。</p> |